

【小学校部門 優秀賞】

たのしい時間がいっぱい
奈良市立都跡小学校 2年 佐竹 檀

わたしは小さいころから、たべものにすききらいがありません。おにく・お魚・おやさい・くだもの何でもパクパクたべます。それはたのしいことがいっぱいあるからです。

春になると、お父さんとつくしとりに行きます。夏はとれたてのナスやトマトをゴロゴロと、秋はかき、冬にはみかんをどっさりおすそ分けでもらいます。休みの日は、海へ魚釣りもいっしょにします。やさいや魚を自分でとるのはウキウキします。それをお母さんがすぐに料りしてくれるので、つくしのつくだに・ナスのあげびたし・小あじの南ばんづけはわたしの大好きです。お母さんはまい日色んなおかずを作ってくれ、人じんシリシリなどめずらしいきょう土料りも大好きです。いっしょに料りするのまたのしくて、ハンバーグを何でもおしえてもらって、今ではわたしのとくい料りになっています。玉ねぎをきると、ポロポロとなみだがこぼれてしまうけれど、おにくをこねこねまぜて丸めてやくのはワクワクします。わたしが作るハンバーグは家ぞくみんなから大人気で、お兄ちゃんは一どに二こもたべても、まだおかわりをします。お父さんはつぎの日のおべん当にも入れてもって行ってくれます。みんながよろこんでたべてくれるのを見ていると「よし、今どはもっとおいしく作ろう。」とうれしくてやるきがわいてきます。

わたしがすききらいなく何でもたべるのは、小さいころから「たべることはたのしいことがいっぱいあるんだよ。」とお父さん、お母さんから教わりながらそだててもらっているからです。きせつのしゅんなたべものや色いろなざい料をつかったおかずにきょうみをもったり、いつもみんなとニコニコしながらたのしくしょくじをすることをこれからも大せつにして、大きくせい長していきたいとおもいます。